



歴史ある街の映画館 ～神保町シアター～

文学の街、神保町。ここに映画館が存在することを存じだろ
か。映画とは、誰もが一度は触れたことのある、全世代が共通し
て楽しめる文学だ。

そこで今回、昭和の懐かしい映画を中心とした上映スタイルの神
保町シアターにインタビュースせていただき、歴史を探ってみた。

神保町映画館の歴史

東京で最初の映画館となった錦輝館をはじめとして、かつて神保町周辺にはたくさん映画館があった。関東大震災のあと、文化の中心が浅草から神保町に移動した。一期までは本の街であるとともに映画の街でもあった。たくさんあった大

り、テレビの普及によって映画が衰退し始めるのとともに、映画館も次々と閉館に追い込まれ、今では戦前からあった映画館は一館も残っていない。現在も、都内でミニシアターの閉館が相次いでいる。二〇〇八年以降、四年間で二十五館以上だ。その中でも残っているのが「岩波ホール」、そして、「神保町シアター」だ。



神保町シアター
自由席九九席定員

支配人にインタビュー

駿河台下交差点から、すずらん通りに入ってすぐ左側、画材店・文房堂の裏にある、周囲の景観とはちよつと変わった六階建てのユニークな建物が、神保町シアターだ。地下一階が映画館で、二階から上には吉本の演芸場と、練習場が入っている。今回は、この「神保町シアター」にスポットを当てて、支配人の佐藤奈穂子さんにインタビューした。

地下鉄神保町駅 A7出口
 ○東京メトロ半蔵門線
 ○都営新宿線
 ○都営三田線

神保町シアター

東京都千代田区神田神保町 1-23
 Tel 03-5281-5132
 都営三田線・都営新宿線
 東京メトロ半蔵門線
 地下鉄 神保町駅 3分

——神保町シアターでは特集企画を取り組んでいます、なぜそのような企画を始めようと思ったのですか？

最初は小学館が作った新作を上映していたんですが、お客さんが入らなかつたんです。まあ、神保町の町に合わなかつたという理由だったと思います。なので、神保町の町にあった映画を、ということで最初は文芸作品（原作があるもの）を上映することを始めました。そうしたら、それが好評だったので今もそのまま続けている、という感じです。

——二〇〇八年から本格的に名画座という形で始まったようですが、それまではどのような映画を上映していたのですか？



神保町シアター 支配人
佐藤 奈穂子さん

レイトショーで、古い映画を上映する形をとっていましたが、昼間は小学館が関わっている新作の映画を上映していました。一番最初に上映したのは、ポケモンで、たまたまその頃に小学館で制作している映画がアニメーションが多かつたので、アニメの上映が多かつたですね。まあ、でも、神保町で見なくてもね（笑）

——どのように上映作品を選んでいきますか？

「次何やるのか」という感じなんです。名画座に来るお客さんって「こういうのが見たい」という思いをずっと持つてる人が多いですね。そのリクエストされた映画を上映するためにはどんな特集だったら上映できるのかというのを、スタッフで話し合つて企画を出しています。で、うちの映画館って珍しくて、経営は小学館なんですけど、運営はしていないんです。ここには小学館の社員は一人もいないんですよ。だから、スタッフで話し合つて決めた企画を小学館にプレゼンしに行つて、承諾を貰つて上映している、という感じなんです。

——小学館からこの特集をしてほしいといったような要望はないんですか？

それは時々あつて。それは小学館の作品というより、小学館から出る本、図鑑とかに合わせた特集をやつてと言われるのが一番難しいですね（笑）

以前、小学館から日本の総理大臣全集なる本が出るから、それと同時に総理大臣特集をやつてくれと言われてたり、無理難題が出ることもありますが、何個かに一個は要望に答えられるように特集を組んだりしています。昨年の夏は、小学館が制作した映画のレイトショーをやりました。

——開業はいつだったんですか？

二〇〇七年七月七日にオープン。グセレモニーがあつて、ピカチュウと吉本の芸人さんが来て記者会見をしたんです。七日に建物はオープンしたんですけど、映画上映は14日から始まりました。

——「卵」をイメージして造られた建物だそうですか？

そうなんです。「卵がひび割れて、これから何かが生まれるよ」っ

ていうイメージなんですって。小学館の社員証が、卵が割れて真ん中にひよこがいるんです。この建物はすごい世界的に有名らしくて、建築の勉強をされている外国の方がいまだに建物の見学によくいらつしやっていますね。

——今回の特集「日活映画 100年の青春」二六作品の中で、初心者の方でもお勧めの作品を教えてください。

いい宣伝になりますね（笑）「幕末太陽傳」ですね。日活が百年を記念して、完全デジタル修復して今まで見えなかつたものが見えるようになった、数億円かけて、国立フィルムセンターと日活の共同企画で修復をした作品になります。これぞ日活という映画です。これは古い日本映画を見たことがない人でも十分楽しめる娯楽超大作です。落語のネタを原作にしているので話の展開も早いし、見たらびびくりすると思います。昔の日本ではこんな映画も作られていたのか、と感激するには十分の映画になっています。

岩波ホールでは、アジア・アフリカなどの映画や、大作ではないが欧米の良質な作品を探して上映している。現在、上映された作品は200本を超えるという。埋もれた名作が、岩波ホールではたくさん公開されてきた。

〈映画が人生を変える〉

「昔は映画館で観た映画を、現在はDVDやダウンロードすることによって観ることができるようになっていく。映像は溢れているけれど、映画館への馴染みは薄れてきている。家で、テレビやDVDで映画を観ることもいいが、映画館で、他の人たちと一緒に、集中して観る映画はまた別世界の体験。ぜひ、現代の若い人にも足を運んでもらいたい。」と話す、岩波ホール支配人である岩波律子さん。

また、東日本大震災後、感動を求めているお客様が増えているそうだ。「こんな時期に、映画を上映しているのだからか」と考えていた」と

いう岩波さんは、お客様の「こんな時だからこそ観たい」という言葉に救われたという。何か心の指針になったり、立派に生きている人の姿を観て、強さや勇気をもらったり。様々な感動や感銘を届けてくれるのも、映画の魅力である。

DVDには手軽さがある。しかし、大きなスクリーンで観る映画には、人生を変えるほどのスケールがある。我々が読書をして、心に残る一冊があるように、映画でも心に残る一本に出会っているだろうか。岩波ホールでは、その一本に出会う機会が、想いが、温かさがある。是非、多くの人に訪れてほしい。

推し映画

今、おすすしたい岩波ホール一押し映画は12月15日(土)から2月半ばまで上映されている「最初の人間」である。ノーベル文学賞作家アルベール・カミュの自伝的遺作である、この作品は岩波さんからみても正直「難しいかもしれない」という。しかし、難解な本や映画に挑戦することを、後に後にと回すのではなく、触れ合う時間のあるときに観てほしいと語っている。なぜなら今、若い世代として可能性のあるときにいろんな考えや視点を増やすことができるからである。

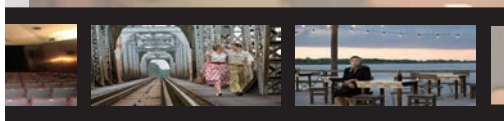
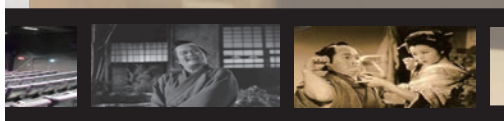
「最初の人間」は、観る人によって、様々な視点で見ることができるといえる。であると見えよう。

父親が戦争で亡くなり、厳しい環境の中で字の読めない家族の中で育ったカミュが学校で学びながら成長していく姿、カミュがアルジェリアに生まれ育ったフランス人として両者の和解と共存のために思い悩む姿。その過程のなかで様々な人間と出会い、生きていくカミュの姿から何か感じとることが必ずあるのではないだろうか。

岩波ホール URL

<http://www.iwanami-hall.com/contents/top.html>

※岩波ホール総支配人・高野悦子氏の「ご冥福を心よりお祈り申し上げます。」



シアター



岩波ホール支配人
岩波律子さん

本の街神田・神保町の奥まった

通りに卵をイメージして造られたという真新しく斬新な建物が佇んでいる。2007年7月7日に建てられた神保町シアタービル内に、昭和の懐かしいノスタルジアチックな上映機会の少ない作品を取り扱っている名画座である。

神保町シアター支配人の佐藤奈穂子さんにお話を伺った。

名画座に来るお客さんは20代、30代、特に映画を見る娯楽を知っている70代のリピーターファンがいる。来場したお客さんからはこんなところがよくあった、今度はこの女優さんの映画が見たい、監督の作品を見たいといった生の意見が自然と聞こえ



神保町シアター支配人
佐藤奈穂子さん



わたしの

押し映画



押し映画

佐藤さんが1月〜2月にかけて上映する「神保町シアターセレクトション日活映画100年の青春」の中で最もおすすめする一作を紹介してくれた。

フランキー堺さん主演の「幕末太陽傳」だ。幕末太陽傳はテンポが速く、初めて古い映画を見る人でも落語を原作としているため楽しむことができる。昭和三十二年に作られた作品だが、現代のデジタルリマスター技術を用いて鮮明な白黒映像を楽しむことができる。物語の舞台は文久2年品川遊郭。主人公の佐平次は遊郭で無銭飲食をくりかえし、そして勝手に居座り大活躍。笑いあり、涙ありの物語になっている。ぜひ若い年代の人にも見てほしい一作だ。

神保町シアター URL

<http://www.shogakukan.co.jp/jinbocho-theater/>

(文・写真 田中啓予

羽生智子

宮田果歩 森嶋沙織)

てくるそう。根強いリピーターから愛されていることが垣間見ることができる。今後は若い世代にも積極的に興味を持って欲しい。

シネコンとはまた違った、モノクロの世界が広がる

名画座で見る意味は「フィルムで昔ながらの味わいとともに見る楽しみを持っている」高画質で見るよりもフィルムは自然で丸みのある映像が特徴である。例

例えば、美術館に絵を見に行き実際の絵画に触れることは、冊子で見るとよりもリアルな質感を感じることができ。フィルムも同じように、ぼやけた輪郭とフィルムをまわしている音が癖になる。そうなるとフィルムでしか見たくないという気持ちが高揚してくるといふ。

サイレント映画のピアノ生伴奏つき上映を行っており、名画座でピアノを常設している映画館は神保町シアターのみの試みである。斬新なアイデアはそれだけにとどまらない、神保町シアターだからこそ組むことが可能な特集企画は新たな歴史を刻み続けている。